

第5号議案

社会資本整備総合交付金事業(道路改築)
(主)高崎神流秩父線(矢田工区) 高崎市

着手年度
評価理由

平成29年度
事業費の増額

1. 事業の概要

県土整備プランの位置づけ 政策1:災害レジリエンスNo.1の実現
施策3:防災インフラの整備(中長期レジリエンス戦略)

- ・県道高崎神流秩父線(矢田工区)は、高崎市街地および防災拠点(吉井分屯地)と、吉井ICを結ぶ幹線道路である。
- ・現道は人家連坦地区や商業施設等を通過しているため、朝夕の通勤時間帯で慢性的な渋滞が発生しており、円滑な交通に支障をきたしている。
- ・本事業により、現道の渋滞箇所を回避することで混雑緩和が図られるとともに、防災拠点(吉井分屯地)と重要物流道路(上信越自動車道)を結ぶ区間の4車線道路整備により、災害時のレジリエンスやリダンダンシー機能が強化される。



現道区間(渋滞状況)



事業場所	高崎市吉井町岩崎～高崎市吉井町矢田	
区分	従前の計画公表値	今回
全体事業費	8,500百万円	12,490百万円
全体事業費増減の理由	—	・資材価格や労務単価高騰による増額 ・埋蔵文化財調査規模増加による増額
事業期間	H29～R11	H29～R13
事業内容	道路延長 1,900m 幅員 24.0m	道路延長 1,900m 幅員 24.0m

2. 進捗状況

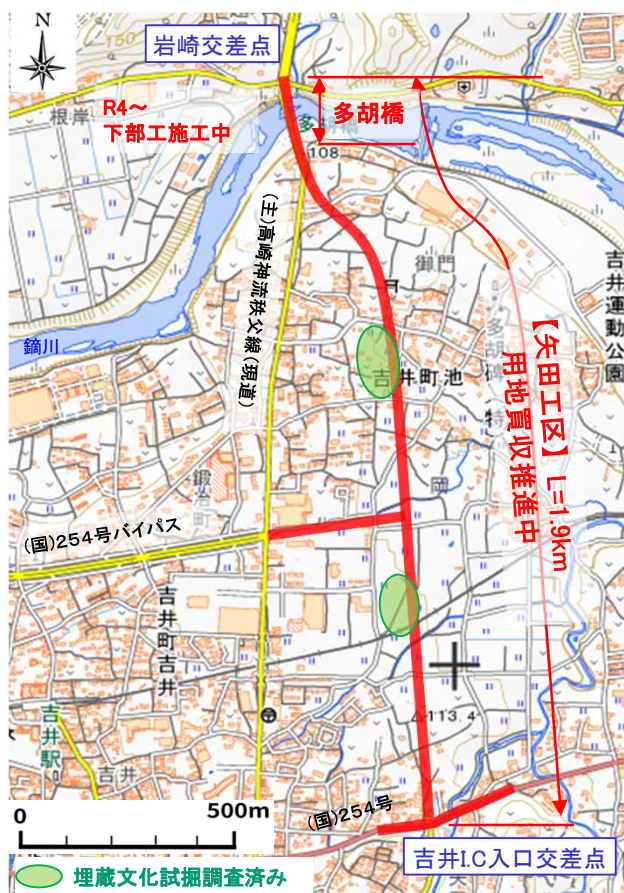
事業経緯

進捗状況

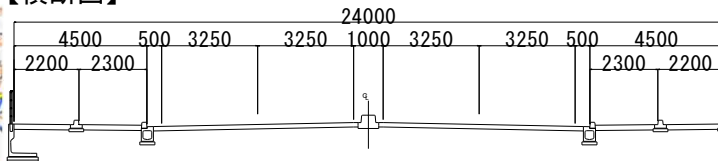
年度	主な経緯	全体計画	前回評価時の進捗状況(進捗率)	前年度までの進捗状況(進捗率)
H29	事業着手			
R1	都市計画変更	事業費 12,490百万円	697百万円 (5.6%)	3,363百万円 (26.9%)
R2	前回再評価 用地買収着手	用地買収 68,230m ²	0m ² (0%)	46,205m ² (67.7%)
R4	工事着手	計画延長 1,900m	0m (0%)	0m (0%)

2. 進捗状況(図面・写真等)

高崎神流秩父線 進捗状況



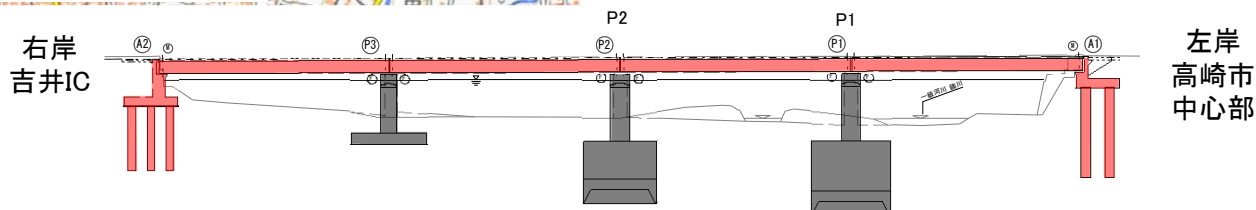
【横断面図】



【多胡橋パース図】



【多胡橋下部工施工状況】



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・県道高崎神流秩父線(矢田工区)は、「災害時にも機能する強靱な道路ネットワーク」を構成する路線として、防災・物流拠点集積エリア内の主要拠点を結ぶ強靱な道路ネットワークを構築する道路である。
- ・現道の交通量は、平成27年度12,131台／日、令和3年度13,460台／日と増加傾向で、前回評価時と同様に現道では渋滞(令和6年3月岩崎交差点渋滞長100m)が発生している状況であり、岩崎交差点、川内交差点は現在も主要渋滞箇所指定されていることから、事業の目的・必要性に変化はない。



現道区間渋滞状況(R6.3)



主要渋滞箇所(R5)

4. どのような事業効果が見込めるか？

①防災拠点相互を結ぶ道路ネットワーク構築と多重性の確保

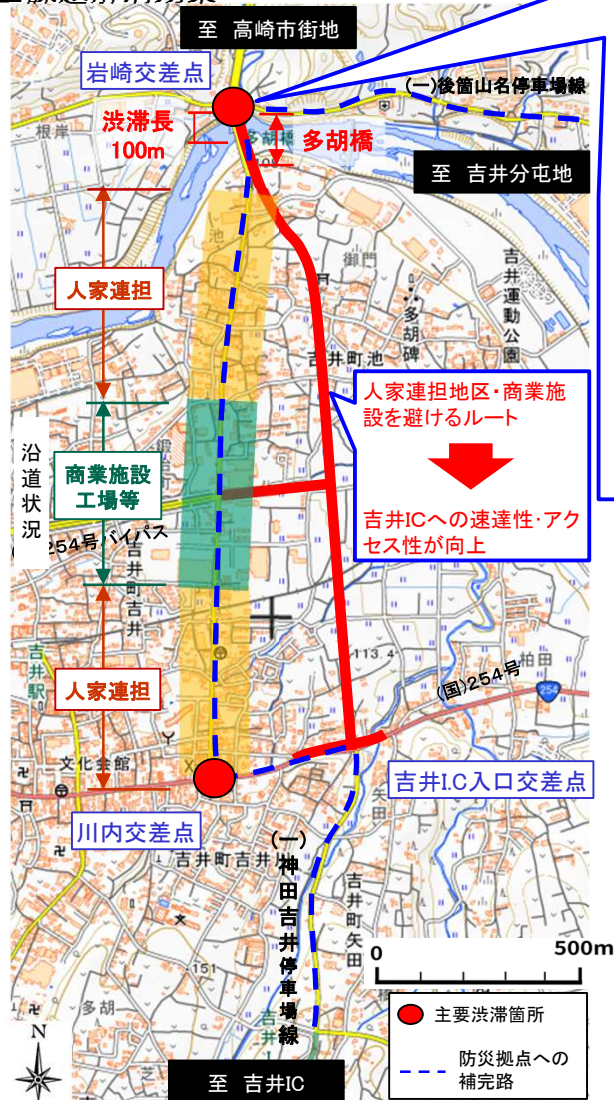
本路線の現道は、第一次緊急輸送道路および重要物流道路(上信越自動車道)と第2次防災拠点(陸上自衛隊吉井分屯地)とを結ぶ補完路に指定されており、本路線の4車線道路整備により、防災拠点相互を結ぶ道路ネットワークの多重性が確保されるとともに、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築が図られる。

②周辺道路の渋滞緩和と生活環境の改善

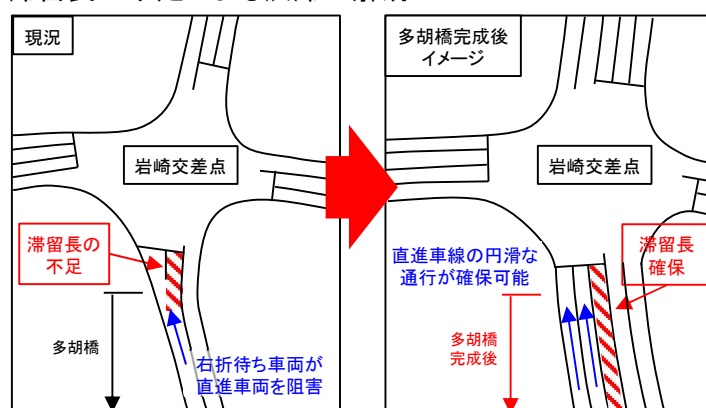
岩崎交差点の右折滞留長不足による渋滞(令和6年3月岩崎交差点渋滞長100m)が発生しているが、本事業により滞留長確保することで岩崎交差点の渋滞が緩和される。

また、現道においても朝夕の通勤時間で慢性的な渋滞が発生しているが、本事業により現道の渋滞箇所を回避することで、現道の渋滞が緩和され円滑な交通が確保されるとともに、交通事故の危険性が減少するなど現道周辺地域の生活環境が改善する。

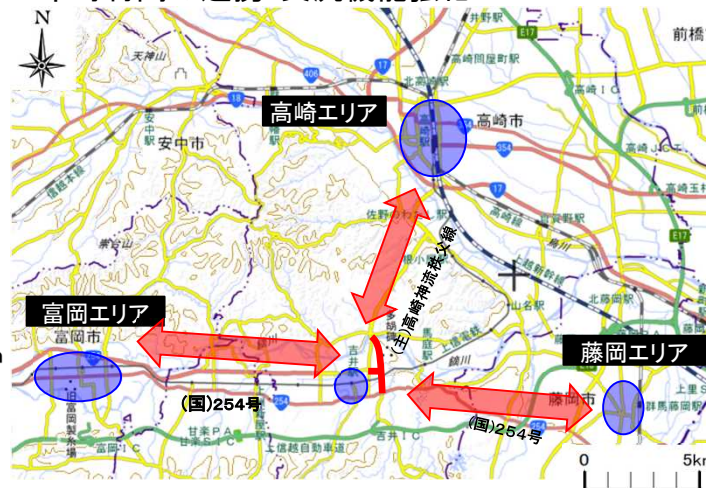
■課題解消効果



滞留長の不足による渋滞の解消



■市町村間の連携・交流機能強化



費用便益分析

	事業全体		残事業	備考
	前回評価時	今回再評価時	今回再評価時	
費用合計(C)	6,760,000千円	10,728,000千円	6,239,000千円	・工事費 ・維持管理費
便益合計(B)	14,490,000千円	30,608,000千円	30,608,000千円	・走行時間の短縮 ・走行経費の減少
費用対効果分析 (B / C)	2.14	2.85	4.91	

5. 事業手法やコストは妥当か？

【前回評価時の計画（事業費）を変更する理由】

1. 資材・労務単価の高騰及び諸経費の増加（+28.6億円）

- ・鋼材単価が令和2年から令和6年で1.8倍、また普通作業員単価が1.2倍になるなど、近年の資材・労務単価の高騰の影響を強く受け、工事費が増額となる。

2. 埋蔵文化財調査費の増加（+11.3億円）

- ・本事業地は、周辺に特別史跡多胡碑関連の重要遺跡が多数存在し、用地買収が完了した箇所から埋蔵文化財調査の試掘を実施しているところである。調査を進めたところ、想定より厚い遺跡包含層が確認されたことから、調査深度が拡大したため、埋蔵文化財調査費が増加となる。



●遺跡包含層の厚さ（想定）0.10m→0.45m



【凡 例】
 : 事業箇所周辺の重要遺跡
 : 埋蔵文化財包蔵地

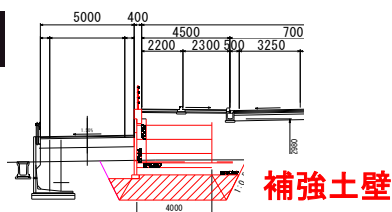
【今回の変更計画の妥当性】

- ・社会情勢による資材・労務単価の高騰及び、文化財保護法に基づく調査費の増額が事業費変更の理由であり、計画に変更はないことから、妥当である。

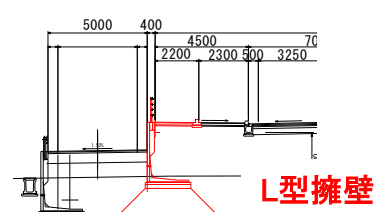
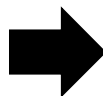
【事業費の縮減に向けた取り組み】

- ・一般部の構造物について、地質調査の結果を踏まえ見直しを行い、補強土壁から安価なL型擁壁への変更に加え、排水構造物の統合等を検討し、コスト縮減を図っている。

当初計画

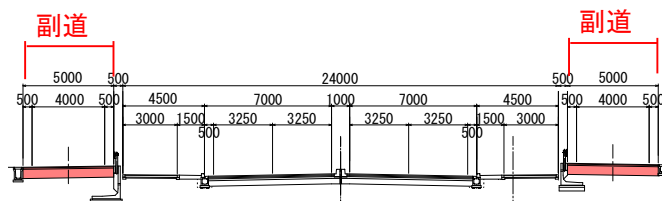


変更計画



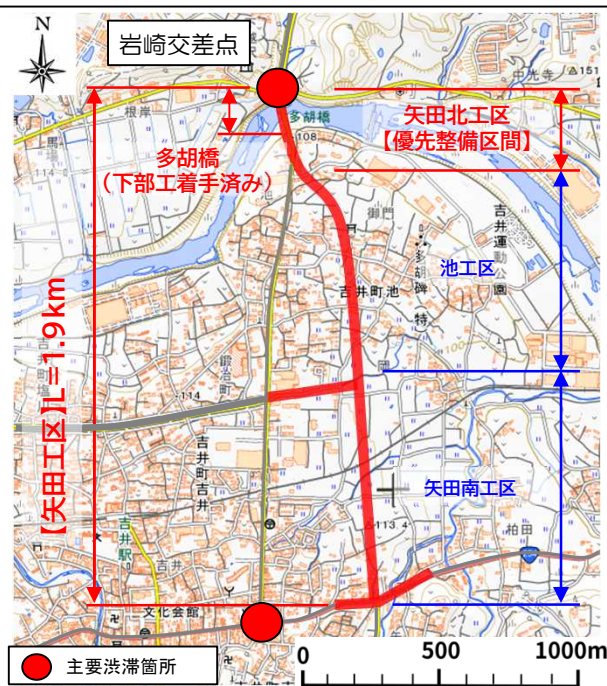
6. 事業実施にあたり、配慮した事項はあるか？

- ・本線整備により、従来の地域住民の往来が遮られ、地域分断が生じてしまう箇所が存在する。バイパスとしての主要な機能である速達性を確保した上で、地域住民の生活環境を配慮した道路計画とするため、道路の利用状況や地域ニーズを把握して計画案の比較検討を行い、バイパスにより市道が分断される箇所に副道を採用し、集約された交差点の従道路へ接続させることで、交差点へのアクセスを向上させ、地域住民の往来を確保している。



7. 事業が長期間要している理由と今後の見通しは？

- 本工区は地権者が多く、地元調整に長時間を要するため、元々が長期計画となっている。
- 令和2年度から用地買収に着手しているが、用地交渉が難航している地権者が複数(25件)おり、その交渉に約2年を要したため、事業完了は令和11年度から令和13年度となる見込みである。
- 今後は、主要渋滞箇所である岩崎交差点を含む矢田北工区を優先区間として整備を進めることで、早期の事業効果発現を予定している。



8. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- 本路線の現道は、第一次緊急輸送道路および重要物流道路 上信越自動車道と防災拠点 陸上自衛隊吉井分屯地とを結ぶ補完路に指定されており、強化の必要がある。また、朝夕の通勤時間で慢性的な渋滞が発生することや、商業施設や沿道住宅への右折待ち車両による滞留が多く、円滑な通行に支障が生じている状況である。
- 本路線の完成により、防災拠点である吉井ICと陸上自衛隊吉井分屯地の相互を結ぶ道路ネットワークが完成し、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築を図ることができる。また、円滑な通行空間が確保されることにより市町村間の連携・交流機能についても強化を図ることができる。
- 用地交渉の難航等により事業が長期化しているが、用地取得の影響を受けにくい「岩崎交差点」を含む区間の優先整備に努め、一つ目の主要渋滞箇所の早期解消に努めている。
- 以上のことから、本事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であるため、事業継続が妥当である。

9. 市町村意見

市町村	再評価における意見
高崎市	本路線は、高崎市街地、防災拠点(吉井分屯地)及び吉井ICを結ぶ災害時の重要路線であるとともに、慢性的な渋滞解消も期待できる。事業期間の延長については理解するが、早期に事業効果が発現されるよう、渋滞箇所整備を優先するなどの検討を含め、早期の完成をお願いしたい。